



マダイ (瀬戸内海中・西部系群)

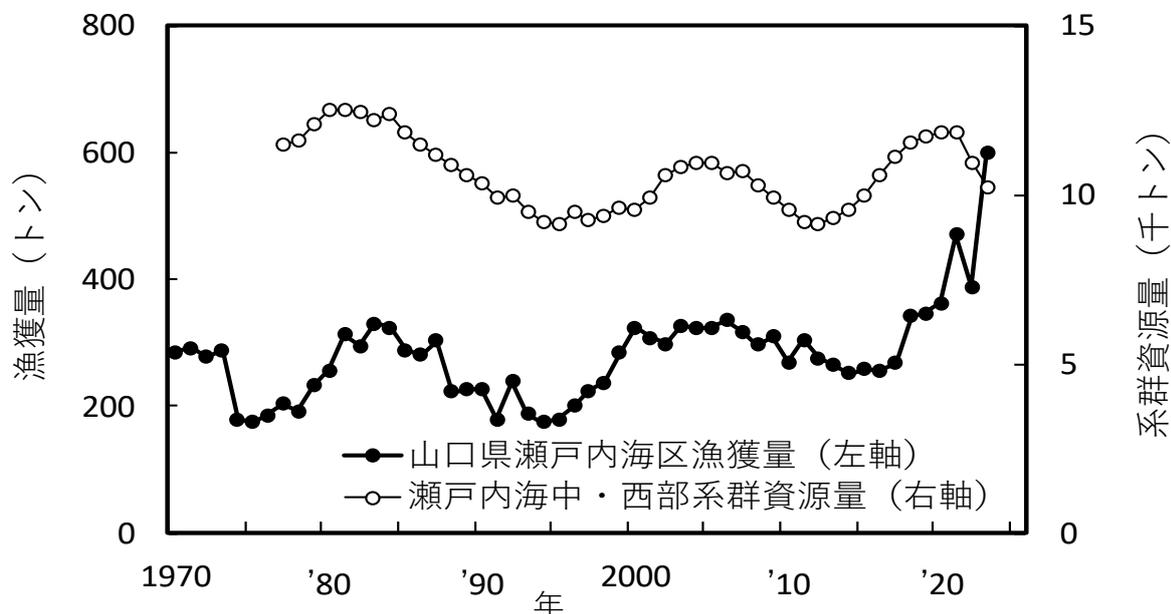


図 山口県瀬戸内海区マダイ漁獲量 (農林水産省統計情報水産業調査 HP) 及び瀬戸内海中・西部系群マダイ資源量 ((国)水産研究・教育機構資源評価報告書) の推移

【漁業】本系群では主に吾智網、小型底びき網 (以下、小底)、釣漁業により漁獲され、瀬戸内海東部系群と比較して吾智網による漁獲割合が高い。2023年は吾智網 35%、小底 29%、刺網 15%、釣り 10%、小型定置網 8%の比率で漁獲された。

【漁獲量】山口県瀬戸内海区の漁獲量は、1970年から2017年の間に174~336トンの間を増減しながら推移した。2018年以降は増加傾向となり、2023年には600トン (概数値) となった。

【資源状態】本系群の2023年資源量は10,200トン、親魚量は7,100トンで最大持続生産量 (MSY) を実現する親魚量 (SBmsy、5,700トン) を上回り増加傾向である。2023年の漁獲圧は親魚量を維持する漁獲圧 (Fmsy) を下回っている。

マダイ (瀬戸内海中・西部系群) の資源評価関連指標値等 (単位: トン)

2023年漁獲量	最大持続生産量 (MSY)	2023年親魚量	目標管理基準値 (案)	限界管理基準値 (案)	禁漁水準 (案)
2,298	2,800	7,100	5,700	3,600	200